



日本女性科学者の会

The Society of Japanese Women Scientists (SJWS)

大倉多美子

<日本女性科学者の会について>

前身の「日本婦人科学者の会」は、「女性科学者の友好を深め、研究分野の知識の交換を図り、女性科学者の地位の向上を目指すとともに、世界の平和に貢献すること」を目的とし、平塚らいてう女史、湯川秀樹博士をはじめとする世界平和アピール七人委員会の応援を得て、1958年4月に設立されました。1996年6月に「日本女性科学者の会(SJWS)」と名称を改め、2008年に創立50周年を迎えました。現在日本学術会議協力団体になっています。会員数は332名、理学(数学、物理学、化学、生物学、地学等)、工学、医学、薬学、農学、家政学等を専攻する研究者、技術者で、男性研究者・技術者も活動に参加しています。大学、研究機関および企業に所属しており、幅広い科学技術分野が対象となっている特色があります。また、広域領域に会員がおり、東北、東海、関西、九州にも支部があります。

<近年の SJWS の活動の流れ>

- 1995 文部省委嘱事業「科学技術系女性人材育成のための調査研究」
- 1996 日本女性科学者の会に改名、第1回奨励賞・功労賞贈呈
第10回国際女性技術者・化学者会議(ICWES10)に出席し、議長を勤め、発表を行う。(ブタペスト)
- 1997 文部省委嘱事業「サイエンスボランティア-女性たちの出前理科実験」
- 1998 文部省委嘱事業「サイエンスボランティア・科学の芽を育てる地域女性たち」
- 1999 第11回国際女性技術者・化学者会議(ICWES11)共同主催(幕張メッセ)
- 2000 ICWES Japan の設立、出前理科実験教室実施

<過去10年間のSJWSの活動>

- 自然科学分野の第一線で活躍している会員、非会員の講演会
- 子供向けの理科教室での実験指導
- 「女子中高生夏の学校」(国立女性教育会館、男女共同参画学協会連絡会)などを主催、毎年共催、参加
- 海外の著名な女性科学者招待講演会
- 女性科学者・研究者の地位に関するシンポジウムや交流懇親会
- 学術大会(研究者の発表・講演会・パネル討論会)
- 日本女性科学者の会学術誌の刊行(年1回)
日本女性科学者の会NEWSの発行(年2回)
- 男女共同参画学協会連絡会に加盟(2002年)し、科学・技術の分野で女性と男性が共に個性と能力を発揮できる環境づくり、ネットワーク作りと社会貢献を目指して活動
2004年には日本学術会議19期第4部登録学術団体となり、理学振興研究連絡委員会委員及び科学教育研究連絡委員会オブザーバーとして活動
- SJWSサイエンスコミュニケーター認証制度を発足(2007年)
- 内閣府「男女の仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)推進事業」公開シンポジウムを主催(2008年)

<この一年の主な活動>

- 1、第8回学術大会「光は東北から」—— 結集!地方力 —— 2010年10月 仙台
- 2、新春懇談会「女性研究者支援のあり方について」2011年1月 東京
新春懇談会「東日本大震災への支援についての討論会」2012年1月 東京
- 3、第16回日本女性科学者の会奨励賞(2名)・功労賞(2名)贈呈式・記念講演会
2011年6月 東京
第17回日本女性科学者の会奨励賞(1名)・功労賞(1名)贈呈式・記念講演会
2012年6月 東京

*奨励賞:理系分野で研究業績をあげ、その将来性を期待できるもので、本会の目的に賛同し、その達成のために努力していると認められる本会員に対して、年齢、国籍、性別は問わず、年2名以内に奨励賞を贈呈しています。これまで34名の方々が受賞されています。

＊功労賞：日本女性科学者の会の研究推進や地位向上等に寄与した方や、会のために
尽力し顕著な功績のあった会員を対象とし、賞状と記念品を贈呈しています。

1996年6月の第一回贈呈以来、これまでに31名（うち男性2名）の方々が受賞
されています。

4、SJWS 第3代会長「数野みつ子先生を偲ぶ会」2012年3月 東京

5、女子中高生夏の学校に企画参加 2011年8月 東京

〃 参加 2012年8月 東京

6、学術誌の電子オンライン化（2012年）

学術誌(Vol.12 No.1 2012)刊行

7、News (No.108、 No.109 2011)刊行

News(No.110、 No.111 2012)刊行

8、若手研究者人材育成、支援のための例会の開催

「融合研究への挑戦」2011年12月 東京

9、支部活動として、年間を通して子供向けの理科教室の開催、地域女性に対するサイエンス
を啓発する活動

分野	分野
第1回(1996年度) 医学(名古屋大) 医学(理化学研究所)	第11回(2006年度) 生物(University of Washington) 工学(産業技術総合研究所)
第2回(1997年度) 化学(東北大) 医学(放射線影響研究所)	第12回(2007年度) 物質工学(豊橋技術科学大学) 医学(日本医科大学)
第3回(1998年度) 医学(京大原子力研究所)	第13回(2008年度) 物理(東大大学院) 医学(福島県立医科大学)
第4回(1999年度) 化学(名古屋大物質科学研究所) 医学(東京医科歯科)	第14回(2009年度) 工学(岐阜大) 医学(九州大医学研究院)
第5回(2000年度) 医学(札幌医科大) 化学(東工大資源化学研究所)	第15回(2010年度) 農学(東北大) 物理(日本原子力研究機構)
第6回(2001年度) 工学(愛媛大) 生物(国際農林水産研究所)	第16回(2011年度) 医学(東大大学院) 生命科学(愛媛大)
第7回(2002年度) 物理(高エネルギー加速器研究機構) 医学(理化学研)	
第8回(2003年度) 物理(東北大) 医学(理化学研)	
第9回(2004年度) 生物(東大分子細胞生物学研究所) 物理(University of Washington)	
第10回(2005年度) 医学(自治医科大) 化学(理化学研)	

受賞者の応募時と現在の職位

准教授 → 教授	17 名(52%)
助教・研究員 → 准教授	5 名
計 22 名(67%)	

2006 年の News Week において

世界が認めた日本人女性 100 名

「か弱い蝶々」という固定観念を打ち破り世界を驚嘆させてきた日本人女性たちー
この 20 年間に政治、ビジネス、アート、音楽、サイエンス、スポーツ界で新時代を
切り開いた先駆者

PIONEERS 100

という特集が組まれ、サイエンス分野 9 名中、4 名の方が SJWS 奨励賞受賞者の中から
選出されました。さらに、その 4 名の中の 1 名は主要国際学術誌論文掲載数が世界第 3 位
にランクされています。

また受賞者以外でも

2011 年 International Year of Chemistry(IYC:世界化学年)での女性化学賞を SJWS
会員が世界 16 ヶ国 23 名のうちの 1 人に選出されました。

<ワークライフバランスへの今後の課題>

男女共同参画社会推進に向けて各分野でワークライフバランスと取り組んできましたが、
余りに分散多岐にわたり、統一性がないように思われます。国立機関は徐々に、改善され
つつある方向にきていますが、民間の各機関に至ってはかなりの温度差が拭えず、総合
的には、男女共同参画社会が前進したようには感じられません。

そこで、上述した当会の奨励賞において応募者の方々を考えると、全般的に女性を
対象にした賞は少なく、サイエンス分野においてはさらに少ない現状の中で、当会のよう
なその全分野をフォローしている会にはありません。特に女性のみを対象とし、年齢
制限もなく、女性特有の出産育児期間なども加味し、トータルの人間性を考慮して選考
しているからこそ応募してこられたと考えられます。

当会の奨励賞の設置は、確実に 2020 年までに意思決定の場に女性の比率が 30%を超える

ことに一役を担えていると確信しております。今後もその賞を初めとして、各地域におけるサイエンスコミュニケーターによる初等教育から次世代への人材育成などのために活動をしていきます。

この小委員会ではまず統一化を図ること、ワーク・ライフ・バランス可能な質の高い保育園の設置、産休後の確実な職場復帰可能な環境整備など、本来の男女の異なった価値観を共有し合い、男性中心社会を脱却するために制度化していただくことが急務であり、その段階に来たと思われます。